

ひとりから

子ども会情報紙『ひとりから』

発行日/2018年12月1日

発行/真宗大谷派(東本願寺) 青少幼年センター
〒600-8164 京都市下京区藤訪町通六条下る上柳町199
TEL: 075-354-3440 FAX: 075-351-9599
E-mail: oyc@higashihonganji.or.jp

北海道教区 寺属小中高生の集い



蓮ちゃん通信 その①

絵本100冊プレゼント 募集中!!



お寺での青少幼年教化で絵本・紙芝居を活用してみませんか? 詳しくは、10月末の寺院・教会定期直送便同封の応募要項をご覧ください。

〔2018年12月21日(金) 応募締切〕



「ううううう」と尋ねる。非常に厳しい問いかけた。北海道教区青少年研修センター使用心得の初めには「常に仏祖崇敬の念を失わないこと」と掲げられている。子どもたちは「何で」「ど

んなら」。なぜ、手を合わせるの? 本堂の出入りはなぜ頭を下げるの? なんでスリッパをならべなくちゃいけないの? 賢くなるにしたがって、こんな質問は恥ずかしいと素朴な疑問に蓋をしてしまう。わかったふりをして、沈黙する。わからない自分自身を隠し、目の前にいる相手に心を開いていない姿だ。取るに足らない質問というものはないが、取るに足らない答えはある。「○○にはこのように書いてある」や、「ある先生はこのように言っている」とはぐらかしたならば、それは誠実さにかけていて、説明であって答えではない。「あなたはどですか」と問いかけてらわれている。仏様の教えに出会えた喜びを、自分を通して表現できなければ答えにならない。

常に仏祖崇敬の念を失わないこと

北海道教区青少幼年指導主任 寺林 如江

教えが伝わるよじ

奥羽教区 本間 義敦



お寺のまじから外をながめると、灰色の空から白い雪が舞い降りてきます。そんな冬の季節がいよいよやってきます。お寺のまわりは一気に白い世界に変わり、まるで緑の木々があったことなど嘘のようにみえます。

雪が降ると楽しみみなこともあります。それは、春が楽しみになること。冬のうちからお寺の雪の下、地面には新しい芽が準備をしています。雪解けの水が地面をうるおし、太陽が表面の雪をとかすとあつという間に芽が伸びていきます。まるで春が来ることを知っていたかのよう。雪解けは植物にも人にとっても待ち望んでいたことなのだ教えてくれます。

出してみてください。あるお寺では、夏休みに子どもたちがお寺に集まって新聞記者になり、お寺のことを取材・調査して新聞を書いてくれたことがあります。みんな真剣に話を聞いて取材をするなかで、住職さんが本堂の阿弥陀如来のことを「阿弥陀さまは誰ひとり仲間はずれをつくらない」とお話ししてくれました。それを聞いた子どもたちの中の、ある子どもが新聞に書いていました。

「アミタニヨライは一つだけ大切にしていることがあるそうです。それは、ぜったい一人もなまかはすれにしない。と、このことだぞひびく。」(本文 未)

本堂の阿弥陀如来の写真にこんなふうの説明を書いてくれ、最後に感想としてこう書いてくれました。

「お寺は昔の人や昔の教えなどのさまじまなことが分かりました。ほんま、これからますますとずっと仏様のおしえをつなげていき、お寺のことをずっとずっとわすれないで、このいろんななひみつをいろんな人につたえていきたいと思えます。」(本文 未)

子どもたちと聞く法話

言葉を発するとたくさんの人に向かって広がっていきませんが、言葉が伝わるるとき、それは相手ひとりに伝わるものだと教えてもらったことを思い出しました。ひとりに伝わっていった時に、大事な言葉は「教え」に変わっていくのではないのでしょうか？ もしかしたら「仲間はすれをつくらない」ということは、仲間はすれなんかつくったことないと言っているひとにも、仲間はすれをつくってしまっただけや、仲間はすれにされたと感じているひとのところに伝わっていくのでしょうか。喧嘩をしたとき、相手に勝ったとき、自分が絶対正しいと思ったとき、でもなんだかモヤモヤとした気持ちで芽生えることがありますか？

みんなが書き上げてくれたお寺の新聞は、夏休みが終わったあとそれぞれの学校で展示されたようです。その後、展示から返ってきたその新聞はお寺の本堂で報恩講が終わるまで展示されました。その新聞はたくさんのお寺にお参りにきた時に見られました。たくさんのお参りに、大事な「教え」となって伝わっていったのではないのでしょうか。

これから寒くなってきました。雪の冷たさや寒さは身にしみえます。反対にお日様が出てくると暖かさを感じます。どちらも伝わってくる中で、春を待つ芽は過ぎします。芽吹きの時をしっかりと待っているのではないのでしょうか。

仏さまの教えは私たちにとってどんな芽吹きを待っているのでしょうか。

蓮ちゃん通信 その②

2019年3月2日(土)～3日(日)

雪に愉しむ池の平 with 子ども報恩講!

池の平青少幼年センターで勤まる子ども報恩講にお参りすると共に、手づくりのゲレンデを滑る“すのこぞり”や、アルペンスキーも楽しめます。ぜひお誘いあわせご参加ください。

詳しくは、高田教務所内「池の平青少幼年センター係」☎025-524-3913 までお問合せください。

池の平青少幼年センター

検索



季節到来ということばがあります。季節がめぐって行くように、仏さまの教えも伝わる時がわたしたちに訪れるのではないのでしょうか。

冬休みがやってきます。雪が降っているところ、晴れていくところ、寒くさむところ、みんなの周りはどうなっていますか？

子どもたちが意外に知らない?!

なつかしの定番ゲームで 楽しもう!!



寒い冬に本堂で過ごす時間は、子どもたちにとって、暖かい思い出になるでしょう。
特にたくさんの人が集う年末年始、老若男女一緒になって楽しいひと時を過ごしてみませんか?

フルーツバスケット!

- 1 まるくなって椅子に座ります。
- 2 まず全員に「いちご」「ぶどう」「メロン」などの名前をつけます。
- 3 オニが「いちご!」と言ったら「いちご」の人だけ立ち上がり、空いている椅子に移動します。座れなかった人が次のオニです。

以下同様に、

- 4 オニ「ぶどう!」
→「ぶどう」の人だけ椅子とりをします。
オニ「フルーツバスケット」
→全員が椅子とりをします。



初めましての人とも仲良くなれるよ

おもしろポイントその①

くだもの名前以外でもやってみよう!!

例…「小学3年生!」とか「白い服を着ている人!」
「ペットを飼っている人!」「メガネをかけている人!」などなど。
オニになったらいろいろ考えてみよう。

おもしろポイントその②

3回以上オニになるとインタビュー!

例…「あなたのお名前は何ですか?」
「好きな食べ物は何ですか?」「好きな色は何ですか?」などなど…

大人も子どももグッと距離が近くなれる!



罰ゲームの
かわりです

蓮ちゃん通信 その③

幼児広場を見学してみませんか♪

開催日 毎月第2木曜日
開催時間 10:30~12:00



しんらん交流館では、毎月第2木曜日に「東本願寺文庫幼児広場」を開催しております。絵本の読み聞かせ・紙芝居や、手遊び、工作などをおこなっています。お寺での活動の参考に是非、お越しください。

【場 所】しんらん交流館1階／東本願寺文庫「絵本コーナー」
【内 容】お参り・三帰依(パーリ文)／絵本・紙芝居／手遊び／工作など



「ひとりから」はじめる仏事

子どもたちに
伝えてみませんか？

※大正時代、本山社会課から『児童と宗教』という児童教化の指導者のための雑誌が発刊されていました。そこには、先輩方が遺してくださった遺産がたくさん。このコーナーでは、そこに連載されていた「教案」から、私たちの生活の中の仏事に関するものをサガエさんがリライトしてお届けします!!

※本山社会課…社会と寺院をつなぐべく初めて派内に設置された宗務組織。宗派の青少年教化を担っていた。

しょう こう お焼香

お焼香

お寺で、また、お家のお内仏でご本尊さまに「南無阿弥陀仏」とみ名をお呼びする時に、お線香やお香を焚きます。ご本尊様をお線香やお焼香で清浄にして、み仏さまに向き、大切な時間を迎えましょう。

お焼香で

わたしたちは友だちと「較べて」負けたと悲しくなったり、「優劣を競い」傷つけあっていま

す。そんな「じぶん中心」に振舞っていることに、気がつくことを教えていただいています。そして、他者と「較べる」ことや勝ち抜くことが大事なことでなく、ひとりひとりが尊い「いのち」であることに「気がつくこと」が大事なことで、教えていただいているのです。

お線香やお香を焚き、その香りに包まれて、「じぶん中心の悲しさ」に気がつきましょう。

出典：幡谷淳信「三月教案」供養
『児童と宗教』3巻3号より、一部抜粋、現代語訳
リライト：“サガエさん”こと佐賀枝夏文

ボクはこんな風に話してみました



さがえ なつふみ
佐賀枝 夏文
(大谷大学名誉教授)

君は「お焼香」したことがあるかい。また、お坊さんがお焼香をされるのを見たことがあるとおもう。君もこの意味がわかって「お焼香」といいね。意味がわからないで、「お焼香」すると、なんだか緊張するだけで、つらかったりするからね。

新コーナーの活用例

- ① 本文「お焼香」をそのまま覚えて話す。または、ご自身の表現で話す。
 - ② プリントして配布し、朗読する。
 - ③ お焼香の作法も一緒に伝えてみませんか？
- 上記以外にもその場に合わせてご活用ください！
本文のPDFデータは、青少年センターホームページ「子どもとあそぼう」のコーナーからダウンロードいただけます。

◎ゲームのなかで、ルールにがんじがらめになる大人がいる一方、じつくりメンバーを感じ、手加減したり融通をきかせたりする子どもたちの姿に出あうことがあります。それは「関わり」を大事にする姿でもあります。「関わりを楽しむ」ひと時を過ごすことができるようにしたいですね。
(編集長 池崎方子)

◎「師走」となりました。「師走」の由来には、僧侶が仏事のため、東西を忙しく馳せる様子「師馳す」からきたという説があるそうです。ふと信國淳先生の言葉を思い出しました。「諸君よ。ちよつと待て、そんなにあわてるな」という言葉です。日々、目先の事はかりに気を取られ忙しなく、「しま、こま、こま」を忘れている私を、厳しく言い当てた言葉のようには思います。
(青七幹事 山崎裕大)

編集後記



真宗大谷派の青少年教化の情報をお届けします。

<https://www.facebook.com/oym.hitorikara/>

※facebookの個人アカウントをお持ちでなくてもご覧いただけます。

●真宗大谷派 (東本願寺) 青少年センター TEL.075-354-3440

青少年センターホームページ

東本願寺 青少年センター

検索

ぜひ、ご覧ください!!